

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Vo Hout Kogyo  
北原自動車部品グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン精機

KTC

JDS  
INTERNATIONAL

ENDLESS

Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR VIEW MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

WGSN 日産商品 TOKOH

WedsSport  
Racing Team  
with BANDO

## 2009 SUPER GT Rd.4 MARAYSA RACE



- 開催日: 2009年6月20日～21日
- コース: セパンサーキット(全長5.543km)
- 天候: <予選> 晴 <決勝> 曇り
- 路面コンディション: <予選>ドライ <決勝>ドライ
- チーム: WedsSportRacingTeam with BANDO
- 車名: ウェッズスポーツIS350 <GT300 ゼッケン19>
- ドライバー: 織戸 学 / 片岡 龍也
- 監督: 坂東正敬
- 観客動員数: 予選8,900人 / 決勝30,586人

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Vo.Heart Energy  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン開発

KTC

IDS  
INTERNATIONAL

ENDLESS

Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

日産商品 TOKOH

約1ヶ月半ぶりのレースとなるマレーシア戦。

水曜日から現地に入ったが、予報は雨、しかし現地は快晴。

土曜日のフリー走行開始直後、激しい大雨が襲った。

波乱の幕開けだろうか。

19号車ウェッズスポーツIS350はこのレースから性能調整が5kg増え25kgとなり、ハンディウエイトが58kgある。今年は既に83kgのウエイトがあり、昨年と比べると108kgも重くなっている。今後の展開は厳しいが、シーズンの折り返しとなるセパンで表彰台を確実に狙っていく。そして、去年のリベンジを。

## 6月20日(土)

フリー走行 10:00~11:30(混走)

天気:曇り~雨~晴れ / 路面:ドライ~ウェット 気温27度 / 路温30度

朝は気温も高く晴れていたが、フリー走行開始直前に大雨となった。

この間は走る車も無く、各チーム小降りになるのを待っての走行となる。

スタートドライバーは片岡選手。ドライタイヤでスタートするも、すぐに大雨となり、ピットに戻ってきた。

昨年は予選2位、決勝はリタイヤと19号車ウェッズスポーツIS350にとってデータの無い

サーキットとなる。しかし、鈴鹿のテストで良い方向のセットとタイヤを確認している為、

天候以外は不安の無いスタートとなった。

ウェットのセッティングを調整しながら7LAP目に2分30秒381を記録し、3番手となる。

トップは大雨になる前のーフウエット路面でたたき出した2分25秒091で69号車マレーシアのチームだ。しかし、19号車ウェッズスポーツIS350は日本チームでウェット路面では実質トップとなる。走行時間が残り15分となり、織戸選手に交代し、12LAP目に2分26秒092をたたき出す。しかし、ここでチェッカーとなる。大雨の中、赤旗も出ず、走れない時間だけが過ぎていく中、貴重なウェットデータを得ることが出来た。決勝も雨の予報が出ているので、少ない走行時間だった有意義な走行となった。結果、3番手となり、トップタイムは46号車Zの2分24秒907となる。

このあとの予選はドライ路面となりそうだが、全力を尽くす。





予選1回目 14:15~14:45(混走) / 14:45~14:55(GT300)  
天気: 晴れ / 路面: ドライ 気温33度 / 路温46度

午前中とはガラリと天気は変わり、ドライ路面の晴れとなる。  
マレーシアらしい天気に戻ってきた。

最初の混走時間は織戸選手からのスタート。

今回のアタックドライバーは片岡選手と決まっているので基準タイムクリアと車のドライセッティングの確認となる。3LAP目に2分12秒114を記録し、暫定2番手となる。これで片岡選手に交代し、スーパーラップを目指して予選アタックとセッティングの微調整をする。片岡選手最初の計測で2分12秒812を記録、午前中の大雨でラバーグリップは無く、重量のある車をセッティングの微調整を行いつつ走らせる。ここで混走時間終了となる。

ここまでの順位は3番手で  
トップは81号車ダイシン  
アドバンフェラーリF430で  
2分10秒442。このあとの  
GT300占有時間最後の



アタックで2分11秒535を記録し暫定3番手につくが、重量の軽いマシンがセパンサーキットの特性を活かし、上位に食い込んできた。最終結果は8番手となり、スーパーラップの権利を獲得した。19号車ウエッズスポーツIS350はデビューから全てのスーパーラップ10戦(昨年のもてぎはノックダウン予選)に参加している。

スーパーラップ 16:20~

天気: 晴れ / 路面: ドライ 気温33度 / 路温43度

8番手で予選を終えた19号車ウエッズスポーツIS350の走行順は最初である。片岡選手の渾身の走りで2分10秒866を記録し、このタイムが基準タイムとなる。2番目に走行の11号車ジムゲイナーアドバンフェラーリF430が2分10秒423を記録し、暫定トップへ、その後4番目走行の46号車SロードZが2分10秒356を記録、19号車ウエッズスポーツIS350は暫定3番手となる。

6番手2号車が2分9秒983を記録、ポールポジションは2号車となり、19号車ウエッズスポーツIS350は4番手スタートのセカンドローが決定した。

しかし、2号車に車輛規定違反が発覚し、タイム抹消となる。最終結果は3番手となり、後ろには52号車のシフトIS350となった。これでセカンドローはレクサスIS350の2台となる。

明日の決勝は雨の予報が出ている。

19号車ウエッズスポーツIS350は表彰台を目指し明日の決勝に挑む。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Voit-A-Vis  
Voit-Haus Racing  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン精機

KTC

IDS  
INTERNATIONAL

ENDLESS. Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR MONITOR OHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

日産商品 TOKOH

## 監督、ドライバーコメント

坂東監督

今回の3位はラッキーでした。普通に考えれば2号車と81号車が速かったですからね。しかし、セカンドローというポジションからどのようにレースを組み立てるか？また、雨とPITとの関係が明日の鍵になるでしょうね、

織戸選手

スーパーラップに残れたことは自分にとってもチームにとってもラッキーだった。いろいろな事が起こった中で、表彰台は難しいとおもっていたが、3番手スタートはうちに流れがあると思います。

片岡選手

朝のフリー走行が雨でできっちり走れなかった分、予選に向けていまひとつだったのですが、満足のいく走りですごいラップに残ることが出来、ラッキーな部分も含め、3番手を取れたことはチームにとっても大きかったと思います。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

ヨコハマタイヤ  
Yokohama Tyres  
北関東自動車レースグループ

アルファプロデュース

NUTEC

JMS

AD アイシン開発

KTC

JDS  
INTERNATIONAL

ENDLESS

Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR VIEW MONITOR ÖHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

日産商品 TOKOH



6月21日(日)

午前フリー走行 10:45~11:15

天気:曇り / 路面:ドライ 気温30度 / 路温34度

朝から激しい雨が降ってきた。

今日の決勝は序盤戦に雨の予報が出ている。

フリー走行には雨が上がりドライ路面になっていたが、走行前の点検でトラブルが発生した。スターターが回らないトラブルで午前中の走行は出来なかった。

しかし、メカニックの懸命な努力で決勝前、8分間ウォームアップ走行には必ず間に合う。

フリー走行のトップは2号車紫電で2分11秒699となった。



決勝 16:00~(54LAP)

天気:曇り / 路面:ドライ 気温30度 / 路温37度

相変わらず、雲は多いが路面はドライ。

スタートドライバーは織戸選手、昨年の無念を晴らすべく3番手からのスタートとなる。オープニングラップは順調に3番手に行くが、2番手の11号車ジムゲイナーF430は他車と接触し、19号車ウエッズスポーツIS350は2番手に浮上する。

しかし、今回特別参加のマレーシアチーム69号車がストレートの速さを活かし、1LAP目から3番手まで浮上し、19号車ウエッズスポーツIS350の背後まで迫ってきた。4LAP目には先行を許すが、織戸選手の冷静且つベテランの走りで5LAP目には再度2番手を奪い取った。その後、前を行く46号車Sロードモータースと激しいバトルを展開、8LAP目に19号車ウエッズスポーツIS350はトップに立つ。

19号車ウエッズスポーツIS350の織戸選手は順調に2番手に3秒以上のマージンを築きつつトップを走行するが、予選の違反により、最後尾スタートとなった2号車紫電が11LAP目には2番手まで浮上してきた。最後尾からこのポジションまで上げてきたのは昨年の菅生で最後尾から2位でゴールしたダイシンZと、もてぎで最後尾からテールtoウインを果たした19号車ウエッズスポーツIS350だけだった。しかし、織戸選手の走りで20LAP目に2号車紫電がピットに入るまでトップを譲らなかった。

25LAP目にトップのまま、19号車ウエッズスポーツIS350はピットに入り片岡選手と交代する。



WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Voitex  
Voitex Racing  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

AD アイシン開発

KTC

IDS  
INTERNATIONAL

ENDLESS

Old Linez

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR VIEW MONITOR OHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

WCS 日産商品 TOKOH

WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Voit Hout Keng  
北原自動車修理グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン開発

KTC

IDS  
INTERNATIONAL

ENDLESS. *Old Linez*

KTEL BRIDE

KYB *GruppeM*

REAR VIEW MONITOR *ÖHLINS*

SARD *ODYSSEY*

TAKATA *APP*

ARC *BILION*

日産商品 TOKOH

メカニックの懸命な努力により、午前中に起こったスタータートラブルも無く、19号車 ウェッズスポーツIS350はピットを後にした。

しかし、ピット作業も最速で終わり完璧なピット作業にもかかわらず、2号車紫電に トップを明け渡してしまった。このとき、2号車紫電のタイムは2分11秒～12秒台の 驚異的なタイムで19号車ウェッズスポーツIS350を追い詰めていた。30LAP目には 各車のピット作業も落ち着き、トップは2号車紫電、2番手に19号車ウェッズスポー ツIS350、3番手には今回もタイヤ無交換で走行する7号車雨宮7となる。

片岡選手は懸命に2号車紫電を追いかけ一時は2秒台まで差を詰めていたが、 2号車紫電はその後も11秒台を連発して19号車ウェッズスポーツIS350との差を広 げていった。

50LAP目にチェッカーフラッグが振られ19号車ウェッズスポーツIS350は2番手でゴール となった。

今回のレースはウェイトの重い中、表彰台を獲得できたことはチームにとってとても有 意義なレースとなり、また今後のレース展開において、チャンピオン争いの中で有利 にたったレースとなる。次戦菅生では30kgの追加ウェイトと性能調整のウェイトが載 せられるとおもうが、表彰台を目指し頑張っていきたいとチーム一同考えながら、 マレーシアの地を後にした。





WedsSport

LEXUS

Racing Development  
TRD

ADVAN  
YOKOHAMA

Vo Hout Racing  
北関東自動車グループ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

アイシン/開発

KTC

IOS  
INTERNATIONAL

ENDLESS

Old Line

KTEL BRIDE

KYB GruppeM

REAR MONITOR OHLINS

SARD ODYSSEY

TAKATA APP

ARC BILLION

日産商品 TOKOH

## 決勝後のコメント

### 織戸選手

朝のフリー走行は走れませんでした。急遽セット変更をしたところ、8分間のウォームアップ走行で良い方向のセットアップになり、序盤で早めに順位を上げたかったが、ストレートの速いマシンに引っかけり思うようには行かせて貰えなかった。しかし、レース内容としてはとても良かったと思う。2位でのゴールはチャンピオンシップに向けて絶好のポジションだった。



### 片岡選手

急遽決めたセットが決まり、時間の無い中でメカニックが準備してくれた。順調にトップを狙える位置にはいたと思いますが、マシンのウェイトを考えると現実的には優勝は厳しいターゲットだった。しかし、最後まで優勝を狙えるポジションでレースが出来たことは100点以上のレースだと思います。



### 坂東監督

結果2位には満足していますが、もちろん少し反省点はあります。ただ、両ドライバーやPIT作業にはミスが無く、チームに感謝しています。スタートトラブルで午前中のフリー走行が走れませんでした。レース中のトラブルではなかったので良かったです。今後は必ず、7号車と43号車の前でチェッカーを受け、もっと強いチームにしたいですね。今回の目標はリベンジだったので目標は達成しました(笑) シーズランキングトップではないですが、昔生もチャレンジとしてがんばります。



アルファプロデュース

### 予選結果

1	46	エスロード MOLA Z	2' 10.356
2	11	JIMGAINER ADVAN F430	2' 10.410
3	19	ウェッズスポーツIS350	2' 10.866
4	52	KUMHO TIRE SHIFT IS350	2' 10.897

### 決勝結果

1	2	I.M JIHAN CO.LTD・APPLE・Shiden	1:52' 35.708
2	19	ウェッズスポーツIS350	0' 09.685
3	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	0' 53.064
4	46	エスロード MOLA Z	1' 03.273

### チームランキング

1	7	M7 RE雨宮レーシング	60
2	19	RACING PROJECT BANDO H	56
3	43	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	54
4	2	Cars Tokai Dream28	41

### ドライバーランキング

1	7	谷口 信輝 / 折目 遼	48
2	19	織戸 学 / 片岡 龍也	44
3	43	新田 守男 / 高木 真一	42
4	2	加藤 寛規	31